

| 種別 | 分類番号 | 作品名 | 内容 | 時間 (分) | 利用 区分 |
|-----|------------|---|---|-----------|----------|
| VHS | DD2000-066 | ザ・ノンフィクション 平成十年度芸術祭参加作品 残された使命 ～悪性脳腫瘍に侵された脳外科 医の記録～ | 脳腫瘍の手術では日本屈指の名医である岩田さんは、極めて悪性の脳腫瘍に侵され、三度の手術を受けて脳の3分の1を切除した。死を予知して残された命を、医者として患者として父親として懸命に生きる岩田さんと彼を支える家族の姿を克明に追う。 | 71 | C-1 |
| VHS | DD2003-108 | 金曜エンタテイメント 16週 | タレントの向井亜紀さんが、ガンとの闘いをつづった『16週』をもとにしたドラマ。プロレスラーの高田さんと結婚して7年。待望の妊娠に2人は大喜びするが、初診で行ったガン検査の結果、子宮けい部のガンが見つかった。何とか赤ちゃんを産みたいと頑張る亜紀だが、ガンの進行は速く出産すれば半年の命だという。妊娠16週に至るまでの2人の苦悩と愛を描く。松下由樹/加勢大周/渡辺いっけい/岩本多代/河原崎健三/大杉漣 | 96 | C-1 |
| VHS | DD2003-109 | ドキュメンタリー 北の国から | 1981年に24回シリーズで放送された後、スペシャル番組になって8作目の「2002遺言」で「北の国から」は最終回を迎えた。69歳から22歳の総勢70人のスタッフが、富良野や羅臼の地元の人々の協力を得て作り上げた「2002遺言」21年間の出来事も織り交ぜながら、「北の国から」撮影の真実が初めて明かされる。竹越由幸/杉田成道/仲世古善雄/吉岡秀隆/中嶋朋子/田中邦衛 | 95 | C-1 |
| VHS | DD2003-114 | 平成14年度文化庁芸術祭参加 放送文化基金企画選奨 入選作 品 水俣病 空白の病像 | 世界でも例が無い公害病と言われる水俣病。その原因物質メチル水銀の研究が、日本は大幅に遅れている。この問題点を水俣病に携わった医学者達の証言の中から浮き彫りにした番組。(字幕制作:熊本県聴覚障害者情報提供センター) | 89 | C-1 |
| VHS | DD2003-115 | アートネイチャースペシャル 電 撃黒潮隊 空白 ～述懐・ハンセ ン病報道～ | 2001年ハンセン病問題は、国家賠償訴訟の勝訴、国の控訴断念と歴史の大きな転換点を迎えた。ハンセン病をめぐる長い歴史の中、記者たちはどんな思いでこの問題に向き合ってきたのか。マスコミの抱える問題も見えてくる。(字幕制作:熊本県聴覚障害者情報提供センター) | 25 | C-1 |
| VHS | DD2006-001 | プレミアムステージ世界がもし1 00人の村だったら 3 | 前作、前々作に続く3作目で、今回のテーマは「家族のきずな」。今回は、フィリピン、ポリビア、アルゼンチンから4人の子どもの生活を紹介する。フィリピンからは、ゴミの山でゴミ拾いをして家族を支える12歳の少女を紹介する。また、アルゼンチンからは、前作で紹介したナディアちゃんのその後を紹介する。 | 98 | C-1 |

| 種別 | 分類番号 | 作品名 | 内容 | 時間 (分) | 利用 区分 |
|------------|------------|--|---|-----------|----------|
| VHS | DD2007-001 | 知るを楽しむ この人この世界 アフガニスタン 命の水を求めて 第1回 アフガニスタンという国で | 戦乱の地アフガニスタンに22年前医師として赴任した中村哲さんは、貧しい人々の診療活動が続けるうちに、干ばつを克服しなければ人々の平和な暮らしは取り戻せないと感じる。そして1年間に600本の井戸を掘り、20万の人々に水を供給するようになる。出演：中村哲 | 25 | B-3 |
| VHS | DD2007-002 | 知るを楽しむ この人この世界 アフガニスタン 命の水を求めて 第2回 ペシャワールへの道 | ヒンズークシュ山脈の最高峰・ティリチミールに、登山隊の医師として同行した中村さんは、途中、無医村の人々の厳しい生活を目にした。1984年、パキスタンに赴任し、ペシャワールでハンセン病の治療に専念する。患者1人1人を理解し、信頼関係を深める努力を続ける中村さんの姿を描く。 | 25 | B-3 |
| VHS | DD2007-003 | 知るを楽しむ この人この世界 アフガニスタン 命の水を求めて 第3回 内戦下の診療所開設 | アフガニスタンで慢性的な栄養不足と貧困、病に苦しむ人々を見て診療所の必要性を痛感した中村さんは、元ゲリラたちの協力を得て診療所を開設する。そこには戦争で傷ついた人々もやってきて、中村さんは生涯忘れられない体験をする。 | 25 | B-3 |
| VHS | DD2007-004 | 知るを楽しむ この人この世界 アフガニスタン 命の水を求めて 第4回 出会いの記憶 ～ペシャワール以前 | 困っている人々のために体を張る気風は、祖父から引き継がれたという中村さん。北九州市若松にある本家を訪ね思い出を語る。祖父は小説「花と龍」に描かれた玉井組組頭の玉井金五郎。また、幼いころの昆虫との出会いが、アフガニスタンでの活動につながったという。 | 25 | B-3 |
| VHS DVD | DD2007-009 | 知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は 僕らのふるさと 第1回 夜間中学校との出会い | 昼間の学校が終わった夕方5時に年齢も生まれた国も違うさまざまな人が通う学校・夜間中学校。生徒は皆、昼間の中学に通えなかった人たち。その夜間中学で42年間、国語の教師として夜間中学一筋に教え続けた見城慶和さんに夜間中学との出会いを伺う。出演：見城慶和 | 25 | B-3 |
| VHS DVD | DD2007-010 | 知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は 僕らのふるさと 第2回 生きる力を支える言葉 | 42年間、夜間中学校の教壇に立ち続けた見城慶和さん。夜間中学に通う生徒は時代と共に変わる。高度経済成長期は、終戦直後に中学に通えなかった人たちが大人になって夜間中学に入ることが多かった。その生徒たちの生きる力を支える「言葉」について伺う。出演：見城慶和 | 25 | B-3 |

| 種別 | 分類番号 | 作品名 | 内容 | 時間 (分) | 利用 区分 |
|------------|------------|--|---|-----------|----------|
| VHS DVD | DD2007-011 | 知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は 僕らのふるさと 第3回 不登校の君へ | 1975年ごろから昼間の学校に通えない不登校の生徒が、夜間中学校に増え始めていった。心よろいを着せて、誰とも口をきかなかった生徒が、夜間中学で、みんなの前で初めて声を出して本を読むことができた。昼間の学校と夜間中学校はどこが違うのか。見城さんに夜間中学の教育力について伺う。出演：見城慶和 | 25 | B-3 |
| VHS DVD | DD2007-012 | 知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は 僕らのふるさと 第4回 「鈍行列車」で行こう | 42年間にわたる夜間中学校の教師生活で、見城慶和さんは2000人を超える卒業生を送り出した。そして、2003年3月、見城さんは定年を迎え教師生活を終えた。しかし夜間中学校を卒業しても、更に「学び」を求める人は多い。見城さんの「学び」に対する思いを伺う。出演：見城慶和 | 25 | B-3 |
| VHS | DD2009-001 | 水トク！ 激闘大家族スペシャル 東京下町五つ子ちゃん成長記 2008 | 1993年に東京の下町の湯浅家に生まれた五つ子ちゃん。2001年には妹の燈ちゃんが生まれ、8人家族になった。 そして現在、中学生になった五つ子ちゃんは高校受験を考える時期になった。しかしサラリーマン家庭の湯浅家に私立高校進学は到底無理。両親は頑張って勉強して都立高校に行ってほしいと思うが、五つ子ちゃんの今の関心は携帯電話とゲームを買ってもらうこと。 1993年から現在まで、五つ子ちゃんの成長過程を記録した作品。 | 100 | B-3 |
| DVD | DD2010-005 | プロフェッショナル仕事の流儀 人生によりそい、がんと闘う ～乳腺外科医 中村清吾～ | 乳がん治療のエキスパート中村清吾。彼の元には全国から乳がんの女性が押し寄せる。乳がん患者は40代以降の女性が多い。大半が家庭や職場で重要な役割を果たしている女性たちだ。子育てや仕事を抱えながら病氣と闘う女性たちに、心から寄り添う中村の姿を追う。 | 45 | B-3 |

| 種別 | 分類番号 | 作品名 | 内容 | 時間 (分) | 利用 区分 |
|-----|------------|--------------------------------|---|-----------|----------|
| DVD | DD2010-006 | 情熱大陸 シェフ・パティシエ 長江 桂子 | フランス・パリの一ツ星レストランでシェフ・パティシエを務める長江桂子(ながえけいこ)さん。 お菓子の本場・パリでいま、最も注目を集めるパティシエだ。日本人らしい繊細さと周囲も驚く努力で、遅いスタート・女性・東洋人という3つのハンディを乗り越えた長江のデザートは2年前、有名三ツ星シェフであるミッシェル・トロワグロの目に留まり、「オテル・ド・ランカスター」でシェフ・パティシエに抜擢された。自由で斬新なアイデアが評判の店だ。 なぜ彼女のデザートはフランス人を魅了するのか…。番組では秋の新作メニューの試作から完成までを取材、長江の発想法と同僚パティシエも舌を巻く高度な技術に迫る。(番組HP参照) | 25 | B-3 |
| DVD | DD2011-001 | NHKアーカイブス あの人に会いたい 遠藤周作 | 各界で活躍する人々を迎え、その生の声を聞くインタビュー番組。今は故人となった人物の貴重な映像をお届けする。 人と宗教の関係を描いた作品を数多く描いた作家・遠藤周作。遠藤周作は、人間の生きざまを問う作品を発表する一方で、自ら狐狸庵山人と称し、ユーモアあふれる作品も多数残した。 | 10 | B-3 |
| | DD2011-002 | NHKアーカイブス あの人に会いたい 司馬遼太郎 | 国民的文学といわれる『竜馬がゆく』や『坂の上の雲』の作者・司馬遼太郎。その歴史観は「司馬史観」とも呼ばれ、亡くなった今も、多くの人をひきつけている。 従軍中のエピソードや竜馬への共感、そして日本人に求める規範について、司馬遼太郎が語る。 | 10 | B-3 |
| | DD2011-003 | NHKアーカイブス あの人に会いたい 乙羽信子 | 女優・乙羽信子は、半世紀にわたり映画、テレビで活躍してきた。夫の新藤兼人監督とのコンビで、40本以上の作品を残している。生い立ちから「100万ドルのえくぼ」のキャッチフレーズでのデビュー、そして演技派女優への転身のきっかけ、夫との関係まで、裏話を交えて語る。 | 10 | B-3 |
| DVD | DD2011-005 | 上陸大陸 塾講師 高濱 正伸 | 受験中心の学習塾界へ、全く新しいスタイルの塾を誕生させた塾講師・高濱正伸。教員資格を持っていない高濱の目指しているのは偏差値を伸ばす教育ではなく、偏差値が伸びる教育。勉強のテクニックではなく「なぜ学び、何を学ぶのか？」という勉強に取り組む“姿勢”そのものだ。 | 25 | B-3 |

| 種別 | 分類番号 | 作品名 | 内容 | 時間 (分) | 利用 区分 |
|-----|------------|--|---|-----------|----------|
| DVD | DD2011-006 | 上陸大陸 600回記念 建築家 安藤 忠雄 | 安藤忠雄は現代の建築界の頂点に立つ男だ。下町に生まれ工業高校でボクシングに明け暮れていた若者が、東大出身が当たり前という建築の世界の頂点に立った。その生き方は今の若者たちを勇気づける。日々世界を飛び回り、設計の仕事に打ち込むエネルギッシュな安藤の姿を追う。 | 25 | B-3 |
| DVD | DD2011-009 | プロフェッショナル 仕事の流儀 涙も笑いも、力になる ～院内学級教師・副島賢和～ | 院内学級とは、病気やけがなどが理由で学校に通えない子どもたちのための病院内施設。副島は、ここで勉強を教えると同時に、一つのことを大切にしている。子どもたちの不安や心配を 解きほぐすことだ。「子どもを下から持ちあげる」「そうと、そばにいる」…。番組は、日々子どもに寄り添う副島(そえじま)先生を追いながら、その極意を伝える。 | 48 | A-3 |
| DVD | DD2012-009 | 新日曜美術館 シリーズ 創作の現場ドキュメント(1) 写真家・石内都 「ひろしま」との対話 | 鬼写真家・石内都。1979年、女性初の木村伊兵衛賞受賞、2005年にはヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表となるなど、日本の写真界の一線を走り続けてきた女性写真家だ。昨年、石内は新たな撮影に挑んだ。テーマは「広島」。広島平和記念資料館に保管されてきた、原爆で亡くなった人の遺品など、「被爆資料」にカメラを向けたのだ。焼けこげたワンピース、引きちぎられた上着…。どの品物にも空前の惨劇の傷跡が残る。石内は、一点一点に語りかけるようにシャッターを切りながら、原爆で断ち切られた人々の「その瞬間」以前に思いをはせ、そこに刻まれた生命の痕跡を鮮やかに蘇らせていく。確かに人生を謳歌し、生きていた遺品のあるじたち。石内の写真の中で、被爆資料たちは、自らの刻印された人生を、愛を、静かに語り始める。 これは、一人の写真家の一年半に渡る「広島」との対話の記録である。(NHK番組HPより抜粋) | 45 | B-3 |

| 種別 | 分類番号 | 作品名 | 内容 | 時間 (分) | 利用 区分 |
|-----|------------|--|---|-----------|----------|
| DVD | DD2013-001 | プロフェッショナル 仕事の流儀 闘う介護、覚悟の現場 ～介護福祉士・和田行男～ | 日本全国で200万人を超えるといわれる認知症。その介護の世界に、新しい風を吹き込み続ける和田行男さん。介護の仕方によっては“普通に生きる姿”を続けられると主張。認知症のお年寄りたちが家庭的な環境のもと、少人数で共同生活を送る「グループホーム」で、先駆的な取り組みを続けてきた。和田行男さんの施設では、お年寄りたちは、自分でできることは自分するのがルール。けがや事故のリスクも常にある。それでも和田行男さんは、お年寄り1人1人の認知症の度合いや身体能力などを見極めながら、できる限り“普通の暮らし”を維持できるよう奮闘し続ける。 | 48 | A-3 |
| DVD | DD2013-019 | プロフェッショナル 仕事の流儀 希望のリハビリ、ともに闘い抜く リハビリ医 酒向正春 | リハビリの現実とは、決してなまやさしいものではない。脳卒中による後遺症を抱えた患者の中には、せん妄やうつ病など、精神的なダメージを負ってしまうケースが少なからずあり、それがリハビリを難しくする。しかしリハビリ医の酒向(さこう)は、どんなに困難なケースでも、最後の最後まで粘り抜く。リハビリには、患者の人生を取り戻すという大切な役割があると、信じているからだ。(NHK HPより) | 48 | A-4 |